

芸術の森地区町内会連合会

広報

やませみ

芸術の森地区街づくりビジョン策定始動

欧米などでは、その反省から地域の特性やニーズに応じた地域づくりが求められ「必要なところには太く、必要でないところには細く」をスロー・ガンに自由自在な街づくりを進めようになり、その考え方を日本でも取り入れ、地域の生活を反映した地域計画を地域ビジョンとして策定することとなつた。

芸術の森連町内会でもこの潮流に合わせて地域ビジョンの策定に取り組んでいる。

組織的には、当面連町理事会が中心となり基礎的な作業を進め問題点が明らかになった段階で、各界の代表や学識経験者を含めた「芸術の森地区

間もなく二十一世紀が訪れる、これに合わせて将来の街づくりビジョンの策定作業が全市的に展開している。芸術の森地区連合町内会でも理事会を中心を作業が進んでいる。今後は「街づくり会議」を組織し、更に多くの住民の参加で、将来に悔いを残さない街づくりの基本が論議され、推進される。

従来、国や地方公共団体の長期計画は、国の管理のもとに作成され地域におりてくるのが一般的であった。

それは機能優先、便利さ優先を求めるため、極めて画一的なものであった。

2020年に向けて 街づくり長期の企画

第7号

平成9年3月20日

発行 芸術の森地区
町内会連合会
印刷 (株)辻孔版社

地域を支える人



ほうれん草一筋45年 農業振興に貢献

山田 令二 氏

山田令二氏は、長野県の出身で、真駒内三四六番地（サンブライト東隣）で奥さんとホウレン草の栽培に励まれている。家族は、息子さん夫婦と孫四人の八人で、賑やかで明るい家庭である。

氏は間もなく七十才を迎えるとしているが極めて元気で、元気印そのものである。

昭和十七年に長野県七二会尋常小学校を卒業後叔父の許で大工の修業を重ね、昭和二十一年十一月の新憲法公布で二十才になると自由な大人として扱われる知り、新天地北海道への夢を膨らませていた。

偶然にも長野市駅前の食堂で駒岡開拓のリーダー唐木田真氏

「地区街づくり会議」には、全体会議と常任理事会を設け、常任理事会で整理された原案をもとに、全体会議で討議し決定していく方法が考えられている。

更に「地区街づくり会議」地域の自主的な街づくり運動を推進し、一方では地域の要求行政に求め実現する活動をも

的組織として進んでいくことである。

まち推進センター 手助け・精神的な支え

―― 平成十年度開設予定

当することが考えられている。今後の論議と経緯によっては、更に異なったものとなることと予想されるが地域の将来を決する大きな問題でもあるので、全住民が関心も持ち町内会長団体の代表を通して意見を出しが地域の発展につながる。連町では、基礎的な作業として町内会ごとの「街づくりビジョン」と「公共施設や芸術・体育福祉等の地区振興策」を集約共通する事項や、調整を必要とする事項の整理を進めている。これらを基礎に「街づくり會議」を三月末には発足させ、内容を深める予定で作業を進めいる。

▽芸術の森地区社会福祉協議会の取り組み

(2) ボランティアによる福祉サービスの推進
日常生活の延長上でできる範囲のことについて、互いに暖かい心くばりをし合う、地域の支え合い活動を推進する。日常的な支え合い活動では、解決できないニーズに対して、公的サービスと連携を取りつつ、市民ボランティアが行う福祉活動を推進する。簡単にまとめると、町内や所の人々が高齢者や障害者・子育て中の人たちの実情や実態に応じて日常的支援をすること、更に一歩進めて、区役所の福祉課や福祉施設と連携してボランティアを育成し、その活動を推進することである。

- 一、福祉のまち推進センターの開設を平成十年を目指しして平成九年度中に各町内会に福祉部の設置を進め、これを核として福祉推進委員会の結成準備を進める。
- 二、平成九年度の重点課題としてボランティアの育成・募集組織化を進める。
- 三、芸森社協の内部組織を強化し推進センターの開設準備（場所・施設・設備・常駐者等）を進める。
これからは、いろいろな面で単位町内会の役割が大きくなり仕事も増えるが、少子化・高齢化に対応するため、積極的に取り組まなければならない課題である。

兄弟に会い、その言葉に刺激され昭和二十二年四月緊急開拓団の一員として渡道し、千歳市で唐木田福善氏のもとに身を寄せ開拓の鍼を振るう傍ら大工の仕事を続けた。

昭和二十四年唐木田氏兄弟の勧めで現在地に入植、ここでも昼夜は大工、夜は開墾と一人二役の大活躍をし、今日の基礎を築いたのである。

昭和二十八年からホウレン草の栽培を手がけ、その後の氏は農業一筋に、農業技術の開発と宮農に精魂を傾け、地域農民のリーダーとして、その成果を多くの方々に伝え、地域農業の振興に貢献された。

送りたい。
精進川の辺で、自然を愛し、
花を愛し、ホウレン草に生涯を
かけている山田令二氏に拍手を
農業関係以外でも、常盤体育
振興会を結成し、その初代会長
を務め、更には町内会長として
その間に、開拓農協組合長表彰
して活躍、開拓農協理事に就任
を受賞、更に北海道農業会議表
彰を受けている。

提言1



芸術の森地区

まちづくりにむけて

札幌市高等専門学校 後藤元一

札幌市は二〇二〇年に向けて長期計画を策定するにあたって、新しい試みとして市民の声を計画に反映させる事を考えております。

その為、各区において様々な取り組み方で住民主体の「まちづくりビジョン」を急ぎよまとめる事に成りました。

さっぽろの街づくりは開拓使以来今までほとんど官主導型で進めてきました。市の今

までもはとんど官主導型を計画をまとめる為だけのもののか真意は図りかねますが、今後皆さんが「市民参画型」のまちづくりをやってゆくにあたっては絶好のチャンスだと思います。

今回、突然区から短期間でこの地区的ビジョンづくり、地区振興策の取りまとめを、と言わ

れておそらく町内会の役員の方々をはじめ地区的住民の方々皆さんもとまどわれたのではないでしょうか、今回の企画を見て市も街づくりの姿勢として一步進んだと思いますが、まだ從来のハコ物づくり的な発想が残っている様な気がします。

まちづくりは施設等を「つくる」とは同じ「つくる」でも多少意味が違います。施設等は物が出来れば一応そこで目的が

果される様ですが(本当はその先の管理運営等を含むのですが)、まちづくりは物づくり的な要素も含まれるが、それは「活動」

であり「運動」だと思います。事が決まっていくにはまず「時間」がかかります。又、まちづくりはエンドレスですとそこ

人が住みづける間づくも

うございます。その間にまちでは良い

だけなく困った事もおこ

ると思います。それでも住み続

けなければならない時、そのな

かで立直る力の結集もまちづく

りの活動です。それは活動の中

心になる人材づくりと地区全体

のまとまりです。

もし地区の皆さんに自分達の

まちづくりを自分達の手でと
う意志があるならば、まずその

為の組織づくりから始めなけれ

ばなりません。組織づくりにあたっては、町内会の役員の方だけではなく、性別、年齢別、様々な職域、新・旧の住民等々幅広い層から元気のある牽引者を出 来るだけ多く見つけ出す事と一
般の住民の方々に自分達のまちに対する関心と理解をもつてもらう事だと思います。そして住民が自由に発言できる(責任を持つ)環境づくりも必要です。

またそのメンバーには区の職員の方々にも時によっては参加し

てもらう事も考えられます。組織が出来たら上意伝達機能などない様リーダーの方々は住民の皆さん自分が自分達の意見がまちづくりに反映されているという意識を持つ方向に導いて頂きたいと思います。

「住民参画」のまちづくりはもう一步すんで、自分達は「こうしたい」という意志と責任を持つことです。従来はどうしても「こうして欲しい」という陳情型になってしまい、住民と行政の間に最初から不信感があり、協議の余地が無かったの

最近この地域は大きく変化してきました。特に目につきやすい国道沿いで、宅地化がかなり進んでいます。その進みの方のなかでミニ開発的な所が多く見られ、しっかりと都市基盤の整備がされているのか不安もあります。今後見えにくい部分での開発も皆知らないうちに進んでゆくのではないかと心配しています。現在比較的恵まれている

ではないでしょうか。今後は皆さんが自分達でやる事、行政と一緒にやってやる事、行政にやつてもらう事、それぞれが責任を持つて夢を実現にむけて皆で努力してゆく事が望されます。

芸術の森地区は、周辺の緑や真駒内川等の自然に恵まれ、また芸術の森や滝野の国営公園等の文化施設や、福祉施設等、多くの良好な環境づくりの素材となる要素を地域内に持っています。

まずは住民の方達が自分達の地

区を歩きまわって地区的構造全

体を把握し、どこまで開発が可

能か、どこを残さなければいけ

ないか、そのなかで環境材とな

る要素をどう活かしてゆか

か新たに何が必要か、充分に話

合いこの地区的マスター・プラン

づくりに早急に着手されること

を望みます。その段階で我々札幌市立高専も地区住民のひとりとして参加させて頂き、微力ながらお手伝いが出来れば幸いです。

是非この芸術の森地区が、住民の皆さんにも住みやすい町とし

て、又札幌市民にとつても魅力

のある地区として後世に受け継

がれてゆく事を祈っております。

生きる力を育む里づくり

札幌市立常盤中学校長 谷津敏

生きる力を育む里づくり

札幌市立常盤中学校長

谷津敏

芸術の森地区連合町内会は国道四五三号線沿線にあり、真駒内川の清流に沿った緑豊かな丘陵地にゆったりと広がっている地域です。西暦二千年は常盤地区の開基百年と聞いております。先達の方々の努力で、今日の芸術の森地区が誕生し、これからもまたそのメンバーには区の職員の方々にも時によっては参加してもらいます。社会情勢は、今以上に激しい時

代の変化の中にあっても、この地域への期待が一層大きくなっています。その一つには、四季折々の季節感を肌で感じる中で、「感性」を磨くことのできる地域に成長してほしいという願いです。感性は、すこしオーバーですが、誕生とともに、またその環境が大きく影響するものと思います。現在の芸術の森まもなく、二十一世紀を迎え

化や体育の環境や落ち着いた雰囲気は、感性を磨く最適の場となります。次に、学校教育の場で考えてみますと、学校内だけではなく、一人一人の子供たちが感性を磨く場や時間を終わることのなく、地域に根づき、多くの人々が積極的に参加する事が、一層感性を延ばす条件となります。地域の環境を生かし、「気付き、考え、行動する」中で、感性も大きく成

やませみの眼

▼二十一世紀を間近に控えて、地域を考えるシンポジウムや紙上討論会が盛んである。連町でも札幌二〇二〇年に向けての長期計画の策定に合わせて、地域の顔が見える街、個性的で特色のある街を視点に据えてビジュアルづくりを進めている。

▼函館の強烈な個性は、長い歴史と函館に寄せる市民の強い誇りと自信が創り出している。『函館では中学校三年生から高校三年までの多感な時代を過ごしたそこで出会った人々や風土に影響を受け、受賞作はじめ他の作品でも函館をモチーフにすることが多かった』(辻仁成)『函館出身で「感覚」の仕事についている人は多い。私たちの仕事ですとハーマーク、スタイルスト、カメラマン等函館には感覚を伸ばす力がすごくあります。今後見えにくい部分での開発も皆知らないうちに進んでゆくのではないかと心配しています。現在比較的恵まれている

問題が残るが、中央主権から地方分権へ、大都市中心から地方都市へ、画一化から個性化への動向が芽生えている。その余波が地域づくり推進会議の設置と二〇二〇年に向けての街づくりビジョンの検討策定となって波及している。この波が一過性で終わることのなく、地域に根づき、多くの人々が積極的に参加する運動に定着して、芸術の森地区の風土や力が育つてほしいと願っている。

さて前書が長くなつたが我が石山八区地区は未だ自然が十分すぎる程残存している地区である。

此の度この地区的将来像の夢を述べていただきたいとの依頼で本書をしたためてゐるわけだが、この地区的歴史的な事項は私は分からぬが土地が火山灰地にも不拘、樹木がすくすこと繁つて居り、私が今住んでゐる市街地よりも心なしかはるかに暖かく、風も文句なく少ない。

昔は農地開発として発足したと伺つてゐるが、田畠としての農地ではなく、樹木に着目した先見の明を賞したい。

終戦の年に、常盤の奥へ、当時は町有林開拓と呼ばれた山間部に生まれ育った私にとって、少年の頃の二十一世紀は、遥か彼方の、夢の国であります。

小学六年のお正月に、従兄に連れられて初めて観たアメリカ映画に、正に未来の我が国を見たのです。ホテルのようにつきな家と大きな冷蔵庫、何台もある大きなアメリカ車、ソファとテレビと電化製品。幅広く幾条もの連なる自動車道路。そしてどの家庭にもあるらしい電話。

田和三十三年春のビーチが一冒
険王」「少年画報」などのグラ
ビアで、未来図のイラストに見
ていた夢のような生活との出会い
は、まさに衝撃的であります。
した。
当時の常盤は、農業を営む
「大人と馬と子供と学校」村に
何台かのテレビ、何台かのオー

あれから三十五、六年が経ち常盤を含むこの地域は、すずらん丘陵公園、芸術の森、石山緑地など国際都市札幌の全市的展望からの開発が進み、行政区画としては一昨年、石山連町から分離独立、芸術の森地区として発展をしています。教育機関も小学校三校、中学校二校、専門学校一校を擁し、児童文館、連絡所を備え、道々支笏湖線は国道に昇格し春の融雪期にも舗装された道路は昔のように汚

不便さの共有も必要

みつぼ文具店主
高正治

人間生活を豊かにする為に衣食住等全てに利便を計る努力は誠に結構であるが、それ等が実施された結果として自然環境破壊で有形無形の公害発生が癌発生につながる事項がいくつもあると考えられるからである。

さて前書が長くなつたが我が石山八区地区は未だ自然が十分すぎる程残存している地区であ

高地で生活する外国の例、特にスイス国では、私は訪れたことはないが、自然を上手に利用

昭和三十一年初め頃、私が「冒
不便さの共有」と題して、昭和三十一年二月に「文具店主」に連載された。この連載は、昭和三十一年三月から昭和三十一年四月までである。
この連載は、昭和三十一年三月から昭和三十一年四月までである。

即ち芸術の丘として札幌市としても誇りとする立派な町に発展されん事を祈つてやまない。

提言5



芸術の丘とならん事を我が町

老人保健施設施設アートヒルズ及川久仁夫

期には餌である小魚を多く取らねばならぬ為人目につくことがあります。川岸の一部を仕切りそこに魚を放して餌場として写真を撮っている方もいました。一日粘つて会えるかどうかで

間で会えるチャンスはかなり低いのですが、幸運にもその後二回程見ることができました。そして自転車道と河川改修工事が始まり、この道は走れなくなってしまいました。川にはブ

た。三年後に販売しなった自転車道とコンクリートの川床が出現しました。

今年の冬、インフルエンザが流行して、内地の老人保健施設のお年寄の方の死亡率の高い事が報じられたが、当所ではインフルエンザではなく、唯の風邪と思われた患者が数名にしか過ぎ

くありません。歩道も随分整備されました。正に計画どおりの街づくりが進行しています。

昔一日に三本しかなかつたバスも、しょっちゅう走っています。下水も整備されて水洗化もす。

アートヒルズ

医療法人 愛全会 老人保健施設

ディケア・ナイトケアのお誘い

ご老人の方(70才以上)の病状や障害の程度に合わせて健康管理のプログラムを設定し、リハビリテーション、入浴、趣味活動を通してスムーズに日常生活を過ごせる様に自立支援を行います。痴呆の方もご遠慮なくご参加下さい。

老人保健施設アートヒルズ

南区石山837番地47 TEL592-8500
相談員：秋元・松永・小竹



郷土の
文化財

駒岡「開拓碑」 永久に伝えたい開拓の心

駒岡保養センターの東側一帯
人口ら精進川に沿つて三百
メートル上流の右側丘陵中腹
(前口商店の裏山) に駒岡
開拓記念会館がある。
この会館敷地内に巨大
(約七トン) の十勝石の開
拓碑が牛が臥せたように据
えられている。

第二次大戦後海外からの
引揚者が偉大な指導者唐木
田真氏に率いられて、昭和
二十二年七月二十日テンント
生活で駒岡に入植し、開拓
に心血を注いで迎えた昭和の
四十二年七月に、苦闘の二
十年間を記念して建立した
開拓碑である。

正面には、当時の北海道
知事町村金吾氏の揮毫で
「開拓碑」と記されており、

碑がある碑の右側には、	織田 忠信	工藤寅次郎
開拓文	唐木田 真	小島 仁蔵
一、千三百町歩開放開拓発	川浦權次郎	小泉 汪
祥の地	金森 吉次	秋元佐太郎
一、元道立真駒内種畜場跡	館内 新吉	佐藤 福松
米軍接收地区を引揚者同	前川 松雄	酒井 賢
志の活動により解放、満	前川 武夫	東海林 諭吉
州引揚者を主体に樺太引	樺太関係者	
揚者及び地元戦災者が昭	島田 実	
和二十二年七月二十日現	板垣 節夫	
地に入植	地元関係者	
一、開拓当初團長唐木田真	森 三平	
氏外一三〇名の人々が衣	増井 陸平	
住の困難を克服し開拓	大屋 喜久治	平間 照志
に従事、開拓の進展と共に	久保田和二郎	故矢野 学
と影されている。	唐木田 晴風譚書	



芸術の森地区社会福祉協議会主催・常盤明常会招待
『高齢者と若者の交歓会』開催

三月二日(日)午前十一時より午後二時まで常盤一区会館で「高齢者と若者の交歓会」が開催された。

る七十才以上のお年寄りを招き
札幌大学落語研究会の学生四名の
参加を得て、落語とカラオケで
楽しい一時を過ごした。

主催者を代表して、芸術の森
地区福祉協議会櫛引会長の挨拶
があり次いで、中野常盤一区町

落語とカラオケで大盛会

ているお年寄りは、大勢の観客を前にして、緊張気味に熱演する学生の真剣さに声援を送り交歓した。

第一回雪中運動会開催・石山東体育振興会主催

六競技に挑戦、楽しい一日

三月一日(日)午前九時三十分より、石山東小学校グラウンドを会場に石山東体育振興会主催の「雪中運動会」が盛大に開催された。

競技は、石山東、見晴、駒岡、石山八区の四地区対抗競技と個人競技があり、☆パン食い競争 ☆そり曳き競争 ☆雪中サッカー ☆早喰い早飲み競争 ☆借り物競争 ☆親子そり曳き競争の六種目で競われた。

石山東小学校山本校長先生、佐藤会長他役員と子供達・父母合わせて二百人が参加、団体は石山東が優勝 参加者は満足して帰途についた。

二月一日(日)午前九時より常盤小学校地区体育振興会と常盤小学校PTAの共催で「スノーフェスティバル」が常盤公園内の丘を会場に開催された。スノーフェスティバルは回を重ねる毎に参加者も増え冬の恒例イベントとして地域に定着している。参加者は約三百名(子ども約一百三十名、大人約七十五名)に達し賑やかな大会となつた。

お届けします。一地域を支える人・「あの町この町」・「郷土の文化財」共に戦後入植開拓された地域的を絞ってみました。
昭和二十二年七月二十日に真駒内一団（現駒岡）に唐木田真氏を中心と長野県からの緊急開拓団十三戸が天幕を張つて開拓の鍵を降ろしてから半世紀が過ぎようとしています。清流あり、丘あり、水と空気に恵まれた地で、しかも札幌に近く子供の教育や老人の介護に最適の地に理

好文のなか

スノーフェスティバル

芸林広場



▼国道四五三号から常盤中学校の前を通って駒岡道路(通称)に抜ける連絡路が開通し西岡や国道三十六号方面へ向かう車は便利になりました。それに合わせて駒岡道路の整備も完了し快適なドライブコースとなり、精進川の環境整備も進んでいます。完成後はさぞ素晴らしい街道が出現し、楽しい散歩道を提供してくれるものと期待していますが、残念なことに、この道路沿いの丘陵が火山灰の採取で無残な姿となっています。私有地なので止むを得ないと思いますが、採取の跡地をならして植樹する等修景を義務づける積極的な手をうつてほしいのです。